

共通履修・必履修科目

科目名	現代文B			略称	現文B
単位数	2	科目の種類	共通履修	関連系列	全系列
授業形態	科目選択者による一斉授業 ※予習→授業→復習が前提				
科目の内容	一学期	教科書・問題集・プリントを使用して授業を行う。 ◆様々なジャンルの易しい文章を用い、読解方法の基礎演習を行う。 ◆漢字、語句の意味・用法、文学史について学習する。 ◆評論ならびに日本文学史上重要な小説を鑑賞する。			
	二学期	教科書・問題集・プリントを使用して授業を行う。 ◆様々なジャンルの易しい文章を用い、読解方法の基礎演習を行う。 ◆漢字、語句の意味・用法、文学史について学習する。 ◆評論ならびに日本文学史上重要な小説を鑑賞する。			
	三学期	教科書・問題集・プリントを使用して授業を行う。 ◆様々なジャンルの文章を用い、読解演習を数多く行う。 ◆漢字、語句の意味・用法、文学史についての学習を深める。			
履修対象	3年次生全員				
評価方法	定期考査を主とし、平常の活動(提出物・小テスト等)も加味して総合的に評価。				
教材	教科書・「最新国語便覧」・「書いてマスター常用漢字」・「LT2現代文」・「実用国語セミナー」・プリント類				
諸経費	問題集購入に1500円程度(予定)				
備考					

科目名	現代社会			略称	現社
単位数	2	科目の種類	必履修	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	現代の政治 民主政治の基本原理 日本国憲法 日本の政治機構 国際政治			
	二学期	現代の経済 経済社会の変容 経済のしくみ 国際経済 現代社会の課題と青年			
	三学期	上記についての問題演習・解説			
履修対象	3年次生全員 学習指導要領上の必履修科目				
評価方法	定期考査、小テスト、提出物、授業態度など				
教材	教科書・授業中に配布するプリント資料・新聞ほか				
諸経費					
備考	本講座は政治経済の基礎的内容に加え、現代社会の諸課題を考える内容構成とする。				

科目名	体育3			略称	体育3
単位数	3	科目の種類	必履修	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	2クラス合同、男女別で行う。				
科目の内容	一学期	サッカー、バドミントン、ソフトボール、卓球、テニス、水泳			
	二学期	水泳、バドミントン、テニス、ソフトボール、サッカー、卓球			
	三学期	バドミントン、テニス、ソフトボール、卓球			
履修対象	3年次生全員				
評価方法	出席、活動状況（個人・グループ）を総合的に評価する。				
教材	テキスト（カラーワイドスポーツ）				
諸経費					
備考	年度によって種目の変更を行う場合もあります。				

科目名	総合的な学習の時間			略称	総学3
単位数	2	科目の種類	必履修	関連系列	
授業形態	各自が設定したテーマによる個人の個別活動				
科目の内容	一学期	2年生後期に始めた研究をさらに深めていく。 その研究をさらに一年かけて深めることも可能である。 4月 「総合的な学習の時間」オリエンテーション 5月 調査・研究活動、製作活動等 6月 調査・研究活動、製作活動等 7月 調査・研究活動、製作活動等およびプレゼンテーションの方法についての学習			
	二学期	9月 調査・研究活動、製作活動等 10月 調査・研究活動、製作活動等 11月 調査・研究活動、製作活動、論文提出 12月 研究発表			
	三学期	1月 調査・研究活動、製作活動等・報告書作成・枠により研究成果発表			
履修対象	3年次生全員				
評価方法	出席状況、毎時間の取り組み状況、報告書等を総合的に判断し、文章による評価を行う。				
教材	各自で必要なものを用意する。（個人により異なる）				
諸経費	研究活動にかかわる費用。（個人により異なる）				
備考	通年の履修				

選択科目

教科 [国語]

科目名	国語表現Ⅰ（小論文演習）			略称	国表小論
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション、スポーツ、福祉
授業形態	科目選択者による一斉授業（個別指導をする場合もある）				
科目の内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆文章表現の基礎となる語彙の力を高める。（漢字、語句の意味・用法） ◆文章を書く際の基本的な事項を習得する。（原稿用紙の使い方、文章の整え方等） ◆小論文への対処方法を学び、書く練習を繰り返す。 ◆小論文のテーマとなる社会問題について学ぶ。 以上のことを目標に次の計画で進める。				
	一学期	4月 論文作成の手順を学ぶ。 5～7月 小論文の書き方・タイプ別対処法の学習			
	二・三学期	小論文の実践練習 過去の入試問題等を利用して、様々なタイプの小論文を書く練習をする。必要に応じて進路別個別指導を行う。			
履修対象	推薦・AO・一般入試等で小論文を必要とする者。文章による表現活動に関心がある者。				
評価方法	定期考査と平常の活動（課題提出状況・小テスト等）を総合的に評価。				
教材	教科書・「基礎からの国語表現の実践」（京都書房）・プリント類				
諸経費	問題集購入費				
備考	2年次に「国語表現Ⅰ」を履修した者も選択可能。 毎時間の課題を重視する科目なので、遅刻・欠席をしないこと、課題の提出を怠らないことが重要である。				
備考	教科書・副教材は、2年次「古典」で使用したものを継続使用。 2年次に「古典」を履修していない者も選択可能であるが、その場合は必ず国語科の教員に事前に相談をすること。				

科目名	古典演習			略称	古典演
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業 ※予習→授業→復習が前提・小テスト実施				
科目の内容	一学期	教科書・プリントを使用して授業を行う。 【古文】◆古典文法を確実に理解する。◆文学史を確実に理解する。 【漢文】◆漢文の句法を確実に理解する。 【共通】◆歴史上の重要な作品を読み味わう。◆様々なジャンルの比較的易しい文章を用い、読解方法の基礎演習を行う。			
	二学期	教科書・問題集・プリントを使用して授業を行う。 【古文】◆文学史の知識を定着させる。 【共通】◆過去の入試問題を中心に、様々なジャンルの文章について読解演習を数多く行う。			
	三学期	問題集・プリントを使用して授業を行う。 【古文】◆文学史の知識を定着させる。 【共通】◆過去の入試問題を中心に、様々なジャンルの文章について読解演習を数多く行う。			
履修対象	進学希望者 ※文系希望者は必ず、国公立の理系希望者も選択することが望ましい。 古典の学習に関心の高い者				
評価方法	定期考査を主とし、平常の活動(提出物・小テスト等)も加味して総合的に評価。				
教材	教科書・「読解のための必修古典文法」・「最新国語便覧」・「日本文学史必携」・問題集・プリント				
諸経費	単語集・問題集購入に 3000 円程度 (予定)				
備考	教科書・副教材は、2年次「古典」で使用したものを継続使用。 2年次に「古典」を履修していない者も選択可能であるが、その場合は必ず国語科の教員に事前に相談をすること。				

教科 [地理歴史]

科目名	世界史B演習			略称	世史B演
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	実際の入試問題を扱いながら、その解説および補足説明を授業で行っていく。マークシート式、記述・論述式出題に対しても適宜、対応していく。各学期同様。 4月～5月 先史・古代 6月～7月 中世			
	二学期	9月 近代 10月～12月 市民革命、ヨーロッパの再編、アメリカの発展			
	三学期	1月 世界大戦前後			
履修対象	世界史Bで受験を考えている者。毎回、宿題をきちんとこなせる者。				
評価方法	小テストの結果や、宿題の提出状況も加味して評価する。				
教材	2年次に世界史Bで使用した教科書・史料集、プリント				
諸経費					
備考	世界史での受験のため、3年次に世界史Bを選択中の者の受講は可。				

科目名	日本史B演習			略称	日史B演
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業・問題演習				
科目の内容	一学期	4月 明治後半・大正期の歴史 5月 昭和前期の歴史 6月 昭和戦中・戦後期の歴史 7月 高度経済成長期の歴史			
	二学期	9月 現代 まとめ 10月 実践問題演習（原始・古代分野、テーマ史など） 11月 実践問題演習（中世・近世分野、テーマ史など） 12月 実践問題演習（近現代分野、テーマ史など）			
	三学期	1月 実践問題演習（総合問題）			
履修対象	文系大学に進学希望の者				
評価方法	定期考査を主とし、授業への取り組みなどを加味して総合評価する。				
教材	2年生で使用した教科書、図説を続けて使用する。授業で解く問題とは、大学入試問題のことである。				
諸経費					
備考	2年生の授業の続きをやり、それが終わり次第、問題演習に入る。				

科目名	地理B演習			略称	地理B演
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4月～7月 2年次までの基本的な地理の内容（系統地理的分野）を復習し、入試問題演習に対応できる実力を養成する。 自然環境、農業形態と分布、鉱工業生産の発展過程、都市居住問題、民族領土問題			
	二学期	9月～12月 2年次までの基本的な地理の内容（地誌的分野）を復習し、入試問題演習に対応できる実力を養成する。 アジア、アフリカ、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア各地域の地誌			
	三学期	1月 読図や統計分析などの実践問題演習を中心にして、知識・理解の定着を図る。			
履修対象	受験で地理を必要とする人、または地理に強い関心のある人。2年次までに地理Aまたは地理Bを履修していること。3年次に地理Bを選択する人は受講できる。				
評価方法	定期考査及び問題演習の理解度、作業課題の提出状況等も加味し総合的に評価する。				
教材	2年次に使用した教科書、地図帳、資料集。				
諸経費					
備考	実際の入試問題にも触れながら授業を進めます。				

科目名	*世界文化史			略称	世界文化
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	普段、単独で取り上げられることのない、世界史における文化史に重点をおいた講義。文化史上の用語の羅列ではなく、その文化発展の時代背景にも触れていく。各学期同様。 4月～5月 オリент・ギリシア・ヘレニズム・ローマ、キリスト教史 6月～7月 東ローマ帝国			
	二学期	9月 中世都市、教皇権の盛衰・十字軍、東西交渉史、中国王朝交代史（古代～元） イスラム史 10月～11月 ルネサンスと宗教改革、17世紀～18世紀の欧米文化 12月 19世紀～20世紀初頭の欧米文化、			
	三学期	1月 世界大戦前後期の世界、中国王朝交代史（明～中華民国）、仏教史等			
履修対象	世界史を受験科目に考えていて、文化史をまとめて学習したい者。 世界史に興味関心がある者				
評価方法	小テストの結果および宿題の提出状況を加味して評価する。				
教材	2年次に使用した教科書（世界史B、持っていないものは購入のこと）・史料集・プリント。				
諸経費					
備考	世界史Bを履修していない者は相談に来ること。				

科目名	*日本文化史			略称	日本文化
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	2年次生の日本史で扱わなかった飛鳥文化～室町文化を範囲とし、大学入試にも対応できる内容を学ぶ。 4月 飛鳥文化・白鳳文化 5月 天平文化・弘仁・貞観文化 6～7月 国風文化・鎌倉文化			
	二学期	9月 室町文化 10月 桃山文化・寛永期の文化 11月 元禄文化・化政文化 12月 明治～大正期の文化			
	三学期	1月 昭和初期・戦後期の文化			
履修対象	文系大学に進学希望の者。日本文化史に関心をもち、深く学びたい者。				
評価方法	定期考査を主とし、授業への取り組みなどを加味して総合評価する。				
教材	2年次生で使用した教科書、図説を続けて使用。				
諸経費					
備考					

教科 [公民]

科目名	政治経済			略称	政経
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 政治分野（民主政治の基本原理・憲法・政治機構・国際政治など）に関する問題演習 政治に関する時事問題について考える 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> 経済分野（経済社会の変容・経済のしくみ・国際経済など）に関する問題演習 経済に関する時事問題について考える 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> 政治経済に関する演習問題と解説 			
履修対象	<ul style="list-style-type: none"> 難関大学の受験予定者、もしくは政治経済の発展的知識を必要とする者。 問題演習、課題レポート、討論(ディベート)などに意欲的に取り組む意思のある者。 				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、小テスト、課題提出、討論における発言、授業態度などから総合評価する 				
教材	教科書・授業中に配布するプリント資料・授業中に指示する書籍ほか				
諸経費					
備考	<ul style="list-style-type: none"> 履修対象者に対し事前課題を与え、それに関わる面接を実施する。 別に記載してある3年次必修科目「現代社会」において、政治経済の基礎的内容を網羅しているため、本講座は法・経済などの分野における難関大学への進学を希望する者を基本的な対象とする。 				

教科 [数学]

科目名	数学Ⅲ			略称	数学Ⅲ
単位数	6	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義				
科目の内容	一学期	4月 複素数平面 5月 式と曲線、関数 6月 関数、極限、微分法 7月 入試問題演習			
	二学期	9月 微分法の応用 10月 積分法 11月 積分法の応用・入試問題演習 12月 入試問題演習			
	三学期	1月 入試問題演習			
履修対象	2年次に数学Ⅱ・数学Bを修得し、4年制大学理・工・医療系進学を希望している者				
評価方法	定期考査を中心に総合的に評定をつけます。				
教材	教科書・問題集				
諸経費	問題集代				
備考					

科目名	数学 I・A 演習 Y			略称	数 I A 演 Y
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義・演習				
科目の内容	一学期	4月 式の計算 5月 方程式・不等式の解法, 2次関数 6月 2次関数の最大・最小, 2次不等式 7月 2次関数の種々の問題, 三角比の基本			
	二学期	9月 三角比と図形 10月 集合, 場合の数・順列 11月 組合せ, 二項定理 12月 確率, 確率と期待値			
	三学期	1月 命題と論証			
履修対象	大学入試センター試験(数学 I・A を利用する受験者) および看護系進学・公務員試験受験予定者で、数学 I・A の問題演習が必要なもの				
評価方法	定期考査を中心に総合的に評定をつけます。				
教材	数学 I・A 問題集				
諸経費	問題集代				
備考	一人ひとりに問題を当てて、問題演習をしていく。				

科目名	数学 I・A 演習 Z			略称	数 I A 演 Z
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義・演習				
科目の内容	一学期	4月 式の計算 5月 方程式・不等式の解法, 2次関数 6月 2次関数の最大・最小, 2次不等式 7月 2次関数の種々の問題, 三角比の基本			
	二学期	9月 三角比と図形 10月 集合, 場合の数・順列 11月 組合せ, 二項定理 12月 確率, 確率と期待値			
	三学期	1月 命題と論証			
履修対象	大学入試センター試験(数学 I・A を利用する受験者) および看護系進学・公務員試験受験予定者で、数学 I・A の問題演習が必要なもの				
評価方法	定期考査を中心に総合的に評定をつけます。				
教材	数学 I・A 問題集				
諸経費	問題集代				
備考	学習内容的には数学 I・A 演習 X (基礎編) の発展編です。				

科目名	数学Ⅱ・B演習			略称	数ⅡB演
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー
授業形態	講義、演習				
科目の内容	一学期	4月	数学Ⅱ	式と証明、複素数と方程式	
		5月	数学Ⅱ	図形と方程式	
		6月	数学Ⅱ	三角関数、指数関数、対数関数	
		7月	数学Ⅱ	微分積分	
	二学期	9月	数学B	ベクトル	
		10月	数学B	数列、漸化式	
		11月	数学Ⅱ・B	総合演習	
		12月	数学Ⅱ・B	総合演習	
	三学期	1月	数学Ⅱ・B	総合演習	
2月		総合演習			
3月		総合演習			
履修対象	大学入試センター（数Ⅱ・Bを利用する受験者） 及び受験のために数学Ⅱ、数学Bの問題演習が必要なもの				
評価方法	定期考査を中心に総合的に評定をつけます。				
教材	数学Ⅱ・B問題集				
諸経費	問題集代				
備考					

教科 [理科]

科目名	物理			略称	物理
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義、実験、演習				
科目の内容	一学期	力と運動、電気と磁気、原子と原子核の各分野において、適当な物理的事物・現象を取り上げ、基本的な概念・原理・法則の理解を深めるとともに、科学的な自然観を養う。			
		4月	平面運動、運動量の保存		
	二学期	5月	円運動、慣性力		
		6月	単振動、万有引力		
		7月、9月	気体分子の運動、電場と電位		
		10月	電流、電流と磁場		
	三学期	11月	電磁誘導と電磁波、電子と光		
		12月	原子と原子核		
		1月	総合問題演習		
履修対象	2年次に「物理基礎β」を履修したうえで、さらに物理を深く学習したい者。 「物理」を受験科目にする予定の者。				
評価方法	定期考査・出席点・提出物点・授業態度を総合的に評価する。				
教材	教科書、問題集、プリント				
諸経費					
備考					

科目名	化学			略称	化学
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	演習・講義				
科目の内容	一学期	4月 化学基礎の復習 5月 物質の状態と平衡 6月 物質の変化と平衡			
	二学期	7月 無機物質 9月 無機物質・有機化合物 10月 有機化合物 11月 高分子化合物 12月 高分子化合物・総合演習			
	三学期	1月 総合演習 化学基礎の問題演習も行います。			
履修対象	2年次に「化学基礎β」を履修した生徒で、さらに化学を深く学習したい者。または「化学」を受験科目にする予定の者。				
評価方法	主に定期考査で評価するが、その他、出席状況・実験レポート・提出物・授業への取り組み等を総合的に加味する。				
教材	教科書・問題集・図説（2年次で使用したもの）・プリント				
諸経費					

科目名	生物			略称	生物
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義、実験、演習				
科目の内容	一学期	4月 細胞と分子、代謝 5月 遺伝情報の発現、有性生殖 6・7月 動物の発生、植物の発生 実験観察や演習問題を随時行います。			
	二学期	9月 植物の環境応答、動物の反応と行動 10月 個体群と生物群集、生態系 11月 生物の進化 12月 生物の系統 実験観察や演習問題を随時行います。			
	三学期	1月 総合演習			
履修対象	「生物基礎」より、さらに生物を深く学習したい生徒。「生物」を受験科目にする予定の生徒。				
評価方法	主に定期考査 提出物等を適宜加味する				
教材	教科書、プリント、資料集、問題集				
諸経費					
備考					

科目名	物理基礎演習			略称	物理基演
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	演習・講義				
科目の内容	一学期	運動とエネルギー、波、電磁気の各分野において、適当な物理的事物・現象を取り上げ、基本的な概念・原理・法則を復習するとともに、学習内容に対する理解をさらに深める。			
	二学期	過去のセンター試験、私立大学入試問題を中心に問題演習を行い、入試対策を行う。			
	三学期	物理学の成果が現代の豊かな生活を支えていることおよび物理学が基礎的で身近な学問であることを再認識し、科学に対する興味を持つ。			
履修対象	2年次に「物理基礎β」を履修した者で、「物理基礎」または「物理」を受験科目にする予定の者。大学入試センター試験・公務員試験一般教養物理等を受験する者。				
評価方法	定期考査・出席点・提出物点・授業態度を、総合的に評価する。				
教材	物理基礎教科書（2年次で使用したもの）、プリント				
諸経費					
備考					

科目名	化学基礎演習			略称	化学基演
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	演習・講義				
科目の内容		大学入試センター試験レベルの問題の解法を身につけていく。			
	一学期	4月	物質の成分と構成元素		
		5月	物質を構成する粒子と化学結合、物質と濃度		
		6月	化学変化とエネルギー、酸と塩基		
二学期	7月	酸化還元反応と電池、電気分解			
	9月	非金属元素の単体と化合物			
	10月	金属元素の単体と化合物、有機化合物の特徴と脂肪族化合物			
	11月	芳香族化合物			
三学期	12月	大学入試センター試験実践問題			
	1月	大学入試センター試験実践問題			
履修対象	2年次で「化学基礎β」を履修した生徒で、「化学基礎」を受験科目にする予定の生徒。大学入試センター試験、看護専門学校などを受験する生徒。				
評価方法	主に小テストと定期考査とで、評価する。				
教材	化学基礎教科書（2年次βで使用したもの）、問題集、図説（2年次で使用したもの）				
諸経費					
備考					

科目名	生物基礎演習 Z			略称	生基演習 Z
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義・実験・演習				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 代謝とATP等（復習と問題演習） 遺伝子の本体等（復習と問題演習） 遺伝情報とタンパク質の合成等（復習と問題演習） 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> 生体防御等（復習と問題演習） 問題演習 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> 問題演習 			
履修対象	理工系の大学や専門学校への進学を希望する者 (2年次現在『生物基礎演習』を履修している者も受講可とする)				
評価方法	定期考査、提出物（実験レポート等）、出席状況、授業態度等から総合的に判断する。				
教材	教科書、資料集、問題集				
諸経費					
備考					

教科 [体育]

科目名	*スポーツ専攻上級			略称	スポ専上
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	実技および講義（1年生指導を含む）				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 団体種目、個人種目から1種目選択し年間を通じ実技、理論を学習する。 スポーツ専攻初級と同時展開し、1年生（初級）指導も行う。 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> 1学期と同じ 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> 1学期と同じ 			
履修対象	3年次				
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
教材					
諸経費					
備考					

科目名	体育理論Ⅱ			略称	体理Ⅱ
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育理論Ⅰにて学んだ内容の発展。 ・ スポーツの科学的知識を学び、現代スポーツに関わる様々な問題解決に取り組むことで、スポーツリテラシーを身につける。 			
	二学期	・ 1学期と同じ			
	三学期	・ 1学期と同じ			
履修対象	2年次に体育理論Ⅰを履修している者				
評価方法	出席、活動状況、定期考査の内容等を総合的に評価する。				
教材	テキスト 1、2年次使用の保健の教科書				
諸経費	年間 2000 円				
備考					

科目名	*ライフガード			略称	ライフガ
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ プールなど、水辺での救助法についての指導法や理論を、実習や講義を通して身に付け、溺者を救助するだけでなく、自分自身も水辺で事故から守る技術を身につける。 ・ 応急手当の理論を学ぶ。 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ レスキューチューブなどの道具を使用して、救助ができるようにする。 ・ 三角巾や包帯を使用して応急手当を身につける。 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーションで実践を身につける。 ・ ダミー人形などを使用して、心肺蘇生法を身につける。 			
履修対象	3年次、救助法・ライフガードに興味をもっている者				
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
教材					
諸経費					
備考					

科目名	*生涯体育・レクリエーション			略称	生涯レク
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	・インディアカ・ペタング・フライングディスク等の軽スポーツを中心に競技や審判ができるようにする。			
	二学期	・上記の軽スポーツを選択し学習する。 ・上記以外のニュースポーツにも取り組む。			
	三学期	・自他の安全を考慮し、年齢や性差の区別なく実践できる能力を身につける。			
履修対象	3年次				
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
教材					
諸経費					
備考					

科目名	野外活動Y			略称	野活Y
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	・野外活動の基礎的な知識・技術の習得。 ・集団でのコミュニケーション能力の習得。			
	二学期	・野外活動で使用する、道具の整理および用品を自ら作成し使用する。 ・着衣泳や飯盒炊爨などを行う。 ・環境との調和を理解するとともに、エコについて考え実践していく。			
	三学期	・コミュニケーションゲームを実践し、リーダーシップをとれるように学習する。 ・自他の安全を考慮し、年齢や性差の区別なく実践できる能力を身につける。			
履修対象	3年次（野外活動Xと同時履修）				
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
教材					
諸経費	年間 4000 円				
備考	・野外活動で必要とされる、衣類、専用のシューズを用意すること。				

科目名	野外活動 Z			略称	野活 Z
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	実技および講義				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外活動 X で学習した内容の振り返り。 ・ 集団のリーダーシップを発揮するための能力・態度の習得。 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野外活動で使用する、道具の整理および用品を自ら作成し使用する。 ・ 着衣泳や飯盒炊爨などを行う。 ・ 環境との調和を理解するとともに、エコについて考え実践していく。 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自他の安全を考慮し、年齢や性差の区別なく実践できる能力を身につける。 			
履修対象	3年次（野外活動 X を履修した生徒）				
評価方法	出席、活動状況等を総合的に評価する。				
教材					
諸経費	年間 4000 円				
備考	・ 野外活動で必要とされる、衣類、専用のシューズを用意すること。				

教科 [芸術]

科目名	*現代の音楽Y			略称	現代音楽Y
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業及びグループ活動				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲 音の長さ、リズムと拍子、音程 ・ 発声法 平易な2部、3部合唱を使用して ・ リズム打ち、リズム聴音 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合唱 ハーモニーを重視して ・ 楽器演奏 鍵盤楽器、ギターなど（独奏およびアンサンブル） 楽典 音階、調性			
	三学期	鑑賞 オペラ他			
履修対象	音楽系、保育系の進路を考えている者。また、音楽を真剣に愛好する者。				
評価方法	活動ごとの実技テスト、及び鑑賞などのレポート提出。また出席状況、授業態度を加味し総合的に評価する。				
教材	教科書他				
諸経費	楽譜代（約1,000円程度）※都合によって変更する場合があります。				
備考	グループ学習があるため履修生徒は20名程度にとどめる				

科目名	*陶芸Ⅱ			略称	陶芸Ⅱ
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	つば、大皿、パーツもの（急須）などを電動ろくろにより制作する			
	二学期	現代的表現及び抽象形態の制作 自主的に課題を設定し制作			
	三学期	今まで学んだ技法を生かし、たたらでの制作で表現する			
履修対象	原則として陶芸Ⅰを履修した者に限る 陶芸Ⅰを履修していない生徒で陶芸Ⅱを履修したい場合は必ず相談にくること				
評価方法	作品80%、発想、構想の能力を重視し、技能の適正さや創造性を評価する				
教材	ビデオ、その他				
諸経費	5,000円程度（材料費として）				
備考	作業着が必要（ジャージ可） ※課題内容は都合により若干変更される場合があります。				

科目名	*鍵盤楽器演習Y			略称	鍵盤演Y
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	個々の段階に応じた課題に取り組む個別学習。(1講座12名まで)				
科目の内容	一学期	各自の段階を把握し、ピアノ実技課題を設定する ピアノ及びキーボードを用いて個別練習。必要に応じて読譜のための楽典の学習も行う 1学期末実技発表会			
	二学期	新たな課題を設定する ピアノ及びキーボードを用いて個別練習。伴奏づけのためのコードの学習や、コード進行についても学ぶ。 2学期末実技発表会			
	三学期	新たな課題を設定する ピアノ及びキーボードを用いて個別練習。 3学期末実技発表会			
履修対象	音楽系及び保育系・福祉系に進路を希望している者。また鍵盤楽器による演奏に興味を持っている者。				
評価方法	実技発表での演奏を評価する。また、普段の授業態度も加味する。				
教材	初心者は「標準バイエルピアノ教則本」を使用する。				
諸経費	楽譜代として、1000円～2000円				
備考	音楽室の環境(楽器数及び電源数)に制限があるため、履修生徒数は12人以下とする。				

科目名	声楽			略称	声楽
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業及びグループ学習(1講座30名まで)				
科目の内容	一学期	全期を通して、合唱による重唱に取り組む 発声の基本、混声三部の合唱曲			
	二学期	混声三部・混声四部の合唱曲(ア・カペラ曲も含む) グループによる重唱			
	三学期	混声三部・混声四部の合唱曲(ア・カペラ曲も含む) グループによる重唱			
履修対象	音楽系及び保育系の進路を考えている者。合唱を愛好する者				
評価方法	実技テスト				
教材	授業で配布する楽譜類				
諸経費					
備考	グループ活動があるため履修生徒数は30名以内にとどめる。				

科目名	美術史			略称	美術史
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4月 原始、古代オリエント美術、ギリシャ、ローマ美術 5月 キリスト教美術、ビザンチン美術、ロマネスク美術、ゴシック美術 6月 初期ルネサンス美術、15世紀の北方美術 7月 盛期ルネサンス美術 マニエリスム、北方ルネサンス美術			
	二学期	9月 新古典主義、ロマン主義、写実主義、 10月 印象主義、象徴主義、後期印象主義 11月～12月 現代Ⅰ（キュビズム、未来派、シュルレアリスム） 現代Ⅱ（抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル）			
	三学期	1月 現代Ⅲ（コンセプチュアル、アースワーク、ニューペインティングなど）			
履修対象	美術系進路希望者、および美術を深く理解したい者				
評価方法	試験、出席状況により総合的に評価				
教材	「西洋美術史」				
諸経費	2,000円程度				
備考	実技科目ではありませんが、簡単な実技演習を行う。絵の具（アクリルガッシュなど）が必要。授業内容は変更することがある。				

科目名	素描Ⅱ			略称	素描 B
単位数	4	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	鉛筆、木炭を用いて素描（デッサン）作品を制作する。観察力、技術力、表現力をより高める。 4月～5月 想定デッサン（手とモチーフ） 5月～6月 静物デッサン（中型モチーフ） 6月～7月 人物デッサン（モデル）			
	二学期	9月 石膏デッサン（胸像） 10月 想定デッサン 11月 静物デッサン（大型モチーフ） 12月～1月 構成想定デッサン（モチーフを組み合わせ）			
	三学期	1月 構成想定デッサン（モチーフの組み合わせ）			
履修対象	原則として2年で素描Ⅰを履修した者 美術系進路希望者 3年でビジュアルデザイン、絵画を履修予定の者は、本授業を履修することが望ましい。				
評価方法	完成作品の他、制作過程、出席状況などを総合して評価する。				
教材	素描用具・材料一式				
諸経費	8,000円程度（道具を既に持っている者は消耗品のみの経費）				
備考	素描Ⅰを履修していない者で、本科目を希望する者は必ず履修登録前に相談すること。 毎回の課題作品に集中して取り組み、完成させることが必要となる。 年間を通して自宅などでの宿題課題を課すことがある。 課題内容は変更することがある。				

科目名	絵画Ⅱ			略称	絵画 B
単位数	6	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	油絵作品制作を通して、絵画技法の多様性と材料に対する理解を深め、自らのものの見方で表現する力を磨き上げる。 静物画 静物画No.2 静物画No.3			
	二学期	静物と風景の構成画 抽象画 自画像と室内空間の構成画			
	三学期	モデル人物画 静物画（床置モチーフ）			
履修対象	原則として2年で絵画Ⅰ、または1年で絵画初級を履修した者。絵画Ⅰを履修していない者で、本科目を希望する者は必ず履修登録前に相談すること。 美術系進路希望者（または同等の指導によって絵画表現の技術を深く身に付けたい者）。同時に素描Ⅱを併修することが望ましい。ビジュアルデザインⅡとの併修可。				
評価方法	完成作品の他、制作過程、出席状況、および美術館鑑賞レポートを総合して評価する。				
教材	油絵用具・材料一式				
諸経費	追加画材・キャンバス代として 12,000 円程度（油絵セットを持っていない生徒は別に 10,000 円程度必要です。）				
備考	毎回の課題作品に集中して取り組み、全作品完成させることが必要となる。 日本画・工芸・デザイン分野進路希望者で着彩（透明水彩・アクリル）での制作を希望する者は相談にのるので、履修登録前に来てください。 ※課題内容は都合により変更することがある。				

科目名	ビジュアルデザインⅡ			略称	ビジデ B
単位数	4	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	・平面構成課題① ・デザイン課題① ・ポートフォリオデザイン			
	二学期	・デザイン課題② ・平面構成課題② ・デザイン課題③			
	三学期	～デザイン課題③			
履修対象	美術大学、専門学校のデザイン系・工芸系学科への進学希望者。 高レベルの課題に根気よく取り組める者。（ビジュアルデザインⅠ履修済みが望ましい）				
評価方法	授業での活動状況、課題への取り組み、作品の内容、プレゼン発表、出席状況を総合的に評価する。				
教材	デザイン用具一式				
諸経費	10,000 円程度（ビジュアルデザインを初めてとる人）				
備考	個人の制作状況によっては、絵具の補充などでさらに経費がかかる場合がある。 制作の進行具合を見て課題を変更します。				

科目名	クラフトデザインⅡ			略称	クラデⅡ
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン
授業形態	科目選択者による一斉授業（1講座20名程度）				
科目の内容	一学期	様々な素材を用いて立体作品を制作し、立体として形を捉え表現する応用力を養う。 立体構成（応用）			
	二学期	立体造形表現・彫塑（応用）			
	三学期	複数素材による立体構成（応用）			
履修対象	原則としてクラフトデザインを履修した生徒を対象とする。 クラフトデザインを履修していないものは、必ず担当教員と相談すること。 美術系(デザイン・工芸)に進路を考えている者。又は立体造形やデザインに興味がある者				
評価方法	完成作品が提出されていることが前提で、出席状況・授業態度、作品の制作過程、完成度などを総合的に評価する。				
教材	配布プリント・スケッチブックなど				
諸経費	材料費の購入に4,000円程度必要				
備考	細かくて地味な作業や、集中力と丁寧さが求められる。 課題作品には意欲・根気を持って取り組み、提出期限を守ること。 ※課題内容は素材等の都合により若干変更される場合があります。				

科目名	映像表現			略称	映像表
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	美術・デザイン系列
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	15秒程度のアニメーションを1年間かけて制作します。				
	一学期	<ul style="list-style-type: none"> フリップブックを使ったアニメーション原理の演習 アニメーションの設定資料作成（ストーリー、キャラクター等） 絵コンテ作成 セル画作成（150枚程度） 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> セル画作成 セル画撮影～映像編集～上映会 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> 映像作品鑑賞 			
履修対象	アニメーションに大変興味があり、制作意欲が極めて強い生徒。 課題に根気よく取り組み、最後まで作品を完成させられる者。				
評価方法	授業での活動状況、課題への取り組み、作品の完成度、ストーリー、作品レベル、出席状況を総合的に評価する。				
教材	デジタルカメラ、セル画用紙、さつえいくん、パソコン				
諸経費					
備考	アニメーションのセル画は全て手描きで制作する。（150枚程度）				

教科 [外国語]

科目名	コミュニケーション英語Ⅲ			略称	コ3
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	1学期	難易度の高い英文を読んで解釈したり、付随する問題を解いたりする。語彙・文法等に関する小テストを毎回の授業で行う。			
	2学期	難易度の高い英文を読んで解釈したり、付随する問題を解いたりする。語彙・文法等に関する小テストを毎回の授業で行う。リスニングや音読等も効果的に取り組む。センター試験や私立大学の過去問等に取り組む。			
	3学期	入試問題を解く。			
履修対象	(難関) 大学への一般入試を本気で考えている生徒を対象とした講座。(コミュ英Ⅱでγクラスであることが望ましい)				
評価方法	考査、単語テストや提出課題など平常点を基本に、総合的に評価する。				
教材	教科書、副教材、単語集、文法書				
諸経費	文法書・ワーク等を購入する。				
備考					

科目名	英語表現ⅡB			略称	英表ⅡB
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	1学期	大学進学で英語が必要な生徒を対象とした講座。英文解釈や付随する問題を解く。また、学習した内容を使って英作文等を行う。			
	2学期	英文を読んで解釈や付随する問題を解く。また、センター試験等に対応できる英文読解力や文法力、表現力を養う。			
	3学期	1・2学期の総まとめ。			
履修対象	大学進学のために英語が必要な生徒。				
評価方法	定期考査を中心とし、小テスト、提出物等の平常点を加味して総合的に評価する。				
教材	教科書、副教材、単語集、文法書				
諸経費	副教材を購入するかもしれません。				
備考					

科目名	英語会話 Y			略称	英会話 Y
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	○英文の記事等を読んで、それに関してプレゼンテーション等を行う。			
	二学期	○英文の記事等を読んで、それに関してディスカッション及びディベート等を行う。			
	三学期	○英文の記事等を読んで、それに関してプレゼンテーション、ディスカッション及びディベート等を行う。			
履修対象	身近な話題について英語で積極的にコミュニケーションを図りたいもの				
評価方法	定期考査、授業参加度、平常点を加味して、総合的に判断する。				
教材	教科書				
諸経費	教科書代				
備考	3年次生選択科目。ただし、2年次に「英語会話 X」を受講していない生徒は、2・3年生共修の「英語会話 X」を選択すること。				

教科 [家庭]

科目名	栄養 Y			略称	栄養
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	栄養素を中心に栄養の基本について学ぶ。 4月～6月 栄養素の機能と代謝 7月 エネルギー代謝と食事摂取基準 各種実習を通して食に対する知識や技術を深め高めていく。			
	二学期	年齢別に栄養を考えることで知識をひろげていく。 9～10月 栄養状態の評価 10～12月 年齢と栄養 各種実習を通して食に対する知識や技術を深め高めていく。			
	三学期	栄養の知識をスポーツや病態に応用する。 1月 スポーツと栄養 病態と栄養 各種実習を通して食に対する知識や技術を深め高めていく。			
履修対象	栄養・調理関係への進学希望者ならびに食生活全般について興味・関心がある者				
評価方法	出席状況、授業での課題への取り組みと提出レポート(40%)、筆記考査(60%)を総合的に評価する				
教材	教科書 食品成分表 配布プリント 実習機器および器具				
諸経費	年間5回程度実験実習を行う (各自負担となる費用 1回400円程度 年間総額約2000円)				
備考					

科目名	子ども文化			略称	子ども文化
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	4月 児童文化の理解 5月～7月 子どもの遊びについて (手作りおもちゃ・パネルシアター作製) 児童の文化や遊びを通して、子育ての意義や保育の役割について学ぶ。			
	二学期	9月 子どもを取り巻く環境について 10月～11月 児童文化財 人形劇・紙芝居の実演 12月 保育園訪問ならびにその準備 児童の文化や遊びを通して、子育ての意義や保育の役割について学ぶ。			
	三学期	1月 少子高齢化社会と児童福祉 児童の文化や遊びを通して、子育ての意義や保育の役割について学ぶ。			
履修対象	乳幼児・学童保育関係への進学希望者および保育に興味・関心のある者				
評価方法	定期考査、出席状況、授業での課題への取り組みと提出作品・レポートを総合的に評価する				
教材	教科書 配布プリント				
諸経費	実習に伴う教材費 (各自負担となる費用 1000円程度)				
備考	保育および初等教育を進路として目指す者のみ受講を認める				

科目名	調理			略称	調理
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	食文化と年中行事食 献立の作り方 食品の安全と衛生		調理実習	
	二学期	食生活と環境について 和洋中様式の料理様式の特徴 テーブルコーディネート		調理実習	
	三学期	おもてなし料理の課題実習			
履修対象	栄養・調理関係への進学希望者ならびに食生活全般について興味・関心がある者				
評価方法	出席状況、授業での課題への取り組みと提出レポート(30%)、実技考査(35%)・筆記考査(35%)を総合的に評価する。				
教材	教科書 食品成分表 配布プリント 調理機器				
諸経費	年間12回程度 調理実習を行う (各自負担となる費用 1回300円程度 年間総額約4000円)				
備考	調理台数の都合上、21名までとする。 グループによる調理実習を基本とする。				

科目名	ファッション造形基礎Ⅱ			略称	造形基礎Ⅱ
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	一学期	原型を利用したワンピース作成(1)			
	二学期	原型を利用したワンピース作成(2) 文化祭に作品展示 (一部ファッションショーに作品出展)			
	三学期	自由製作			
履修対象	2年次にファッション造形基礎Ⅰを履修したもの。				
評価方法	出席状況・授業への取り組み・課題の提出・ファッションショー等への参加などを総合的に評価する。				
教材	教科書 布、裁縫用具は各自で持ってくること。				
諸経費	各自負担 (布、糸等の実習材料)				
備考					

教科 [福祉]

科目名	生活支援技術B			略称	生活支援B
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	選択者による一斉授業（3年のみ）				
科目の内容	一学期	2学年で学習した「生活支援技術A」の学習をさらに深めて実践的に学習する。同行援護従業者（視覚障害者のガイドヘルパー）について学習を深める。 4月 障害者福祉に関する制度とサービス 5月 身体障害者ホームヘルプサービスに関する知識 サービス利用者の理解 6・7月 視覚障害者の疾病・障害理解、障害者（児）の心理			
	二学期	9月 移動支援の基礎知識 移動の支援に係る技術 10月 移動の支援に係る技術 11月 移動の支援に係る技術・障害者の生活と心理 12月 移動の支援に係る技術・自立生活支援と介護			
	三学期	1月 地域生活を支えるシステム			
履修対象	2年生で「生活支援技術A」を選択した生徒が選択することにより、より内容を深めることができる。将来福祉・保育系への進学希望者は選択することが望ましい。1・2年で「社会福祉基礎 X または Y」を履修しなかった生徒は、あわせて「社会福祉基礎 Y」を選択すること。				
評価方法	出席状況・授業への取り組み・課題の提出・定期考査などを総合的に評価する。				
教材	教科書・視覚障害者同行援護従業者養成研修テキスト・実習用機器・器具				
諸経費	実習に伴う費用として 500 円程度				
備考	「生活支援技術B」では同行援護従事者（視覚障害者ガイドヘルパー）の養成研修を行うため、通常の授業よりも10分早く開始する。規定の時数の出席がない場合は研修修了としないので、しっかり出席すること。希望者で夏休みに実施する家庭・福祉科福祉施設合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。（参加費用が別途かかる）				

科目名	介護総合演習			略称	介護演習
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	選択者による一斉授業（3年のみ）				
科目の内容	一学期	年間通じ社会福祉に関わる調査研究や園芸・クラフトなどを行う。 4月 社会福祉の現状理解・園芸活動 5月 統計資料の活用・園芸活動・クラフト 6・7月 福祉に関わる社会資源マップ・園芸活動・クラフト			
	二学期	9・10・11月 福祉現場で求められるサービス内容 福祉に関わる職員の対応のあり方 園芸活動・クラフト 12月 目標の設定・クラフト			
	三学期	1月 ケアプランの考え方・クラフト			
履修対象	将来保育・福祉系への進路を考えている生徒。				
評価方法	出席状況・授業への取り組み・課題や作品の提出などを総合的に評価する。				
教材	テキスト・実習用機器・器具				
諸経費	年間通じ500円程度				
備考	希望者で夏休みに実施する家庭・福祉科福祉施設合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。（参加費用が別途かかる）				

科目名	*手話実習			略称	手話実習
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	スポーツ・福祉
授業形態	選択者による一斉授業（3年のみ）				
科目の内容	一学期	聴覚障害者の理解を深めコミュニケーション方法のあり方について学習する。 4月 聴覚障害者とコミュニケーション方法 5月 指文字表現・手話単語表現および読み取り 6月 手話単語表現および読み取り 7・9月 短文の表現および読み取り			
	二学期	10月 手話単語表現および読み取り 11・12月 長文の表現・歌の表現・その他応用の表現			
	三学期	1月 重複障害者におけるコミュニケーション方法の理解			
履修対象	「基礎介護 Y」を選択する生徒はあわせて選択することにより、より内容を深めることができる。 保育・福祉系に進路を希望する人は選択すると良い。				
評価方法	出席状況・授業への取り組み・課題の提出・定期考査などを総合的に評価する。				
教材	準教科書・手話辞典				
諸経費	準教科書・手話辞典の他に検定費として5000円程度				
備考	希望者で夏休みに実施する家庭・福祉科福祉施設合宿に参加することでより実践的な学びを深めることができる。（参加費用が別途かかる）				

教科 [情報]

科目名	情報実習 F (データベース)			略称	情報実 F
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	情報・サイエンス
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	Access等を利用してリレーショナル型データベースを学習します。				
	一学期	4月	・データベース概要		
		5月	・データベースの設計と作成の概要		
		6月	・簡単なデータベース作成① (テーブル、リレーションシップ)		
	7月	・簡単なデータベース作成② (クエリ、フォーム)			
二学期	9月	・データベースの構築① (テーブルの活用、各フィールドの設定方法)			
	10月	・データベースの構築② (リレーションシップ、参照整合性)			
	11月	・データベースの構築③ (クエリの活用、様々な抽出方法、アクションクエリ)			
	12月	・データベースの運用① (フォームの活用、レポートの活用)			
三学期	1月	・SQL言語の基礎			
	2月	・SQL言語の基礎			
履修対象	データベースに興味があり、Accessをマスターしたい者。 Excelが使えるもの				
評価方法	出席状況、課題提出状況、平常活動等を加味して総合的に評価する。				
教材	Access, SQLite 等				
諸経費					
備考					

科目名	情報実習 G (マルチメディア②)			略称	情報実 G
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	情報・サイエンス
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	3次元コンピュータグラフィックスに関する基礎を学習します。動画像を中心とした、各種アプリケーションソフトの操作方法に関して学習します。				
	一学期	4月	・3次元CGの原理と基礎		
		5月	・CGモデルの作成、質感の設定、レンダリング		
		6月	・作品制作演習(1)		
	7月	・3次元CGアニメーションの作成			
二学期	9月	・特殊効果等の編集			
	10月	・Webアニメーションの作成と原理			
	11月	・ビデオ編集に関する基礎			
	12月	・総合作品制作演習(2)			
三学期	1～2月・総合作品制作演習(3)				
履修対象	ビデオ編集や、CGに興味がある者				
評価方法	出席状況、課題提出状況、平常活動等を加味して総合的に評価する。				
教材	Autodesk Maya、FLASH、ビデオ編集ソフト等				
諸経費	教材費、1,000円程度 (DVD、ビデオのメディア等)				
備考	情報実習 Bを受講した者に限る。(PhotoShop, Illustrator 等の基本的な操作ができる者。)				

科目名	*ロボット入門			略称	ロボ入門
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	生産・テクノロジー
授業形態	科目選択者による一斉授業（1講座10名以内）工作実習				
科目の内容	1学期	□ロボット（ミニ）の初歩の技術を学ぶ。電気・電子・機械・制御技術の基礎・基本を学習し、ライントレースロボットの製作を行う。 1 ロボットの基本技術の学習（調査・研究） ～6月 2 電気・電子・制御技術の基礎（PICマイコン、センサ・モーター等） ～7月			
	2学期	3 ライントレースロボットの製作 9月～ ・プリント基板の製作と電子回路の組立・配線や本体の加工等をおこなう ・加工技術（金属加工と組立） ・ロボット制御用プログラミングの学習と最適化プログラムの制作 ～12月			
	3学期	4 ロボットの走行チェックとレポート制作 ～3月			
履修対象	工業技術基礎XまたはYを履修した者か工業実習AまたはBを履修した者。				
評価方法	授業の取り組み、製作物・レポートなどを総合的に判断して評価する				
教材					
諸経費	材料費 約5000円（各自負担）				
備考					

科目名	*環境科学			略称	環境科学
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	生産・テクノロジー
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	1学期	地球と人類 社会と環境 地球温暖化とエネルギー 廃棄物とリサイクル			
	2学期	地球環境の保全 産業と環境 都市生活と環境 住環境と健康			
	3学期	環境工学について			
履修対象	地球環境に興味関心がある者				
評価方法	定期考査、授業の取り組み、製作物・レポートなどを総合的に判断して評価する				
教材	教科書				
諸経費					
備考					

科目名	ビジネス情報			略称	ビジネ情
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	科目選択者による一斉授業				
科目の内容	事務系・営業系の職業に役立てるという観点から、再度ワープロソフトや表計算ソフトを用いた学習をするとともに、ビジネスに関する情報を管理・分析・活用する方法を学習する。				
	一学期	4月	情報化と社会（ビジネスと情報、業務の情報化の推進など）		
		5月	ビジネス情報の作成①（ワープロソフトによりビジネス文書の実際を学習）		
		6月	ビジネス情報の作成②（表計算ソフトにより基礎的な情報集約の方法を学習）		
	7月	ビジネス情報の分析①（表計算ソフトの活用）			
二学期	9月	ビジネス情報の分析②（各データ分析法および応用等）			
	10月	財務情報・販売情報の見方と分析、活用など			
	11月	手続きの自動化（考え方と方法）			
	12月	データベース①（設計・作成・検索）			
三学期	1月	データベース②（設計・作成・検索・応用）			
履修対象	就職希望者や、将来事務系・営業系の職種へ進むことを考えている者。特に、これまでワープロや表計算ソフトの学習が不十分であったと感じている者。 ただし「情報実習A・D・E・F」を既に履修している者・今回履修予定の者は対象外。 なお簿記・ビジネス基礎を既に履修しているか、今回同時に履修する者を優先する。				
評価方法	定期考査、授業中の課題、出席などを総合的に判断する。				
教材	教科書など				
諸経費	ワークブックなどで1,000円程度				

科目名	簿記Ⅱ			略称	簿記Ⅱ
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	日商簿記検定3級相当の能力を確実にし、さらに上級を目指す者、および大学入試や就職試験で簿記を活用したい者に必要な範囲を学習する。範囲は全商簿記検定2級相当だが、個別履修者の必要に応じて指導を先行させたり、逆に補習を行ったりすることも可能である。				
	一学期	4月	3級範囲の復習		
		5月～6月	取引の記帳①（特殊商品売買、進んだ手形取引、進んだ有価証券の取引、保証債務の取引、商品有高帳における新たな商品評価法など）		
		7月	決算①（期末商品の評価、貸倒引当金・減価償却の新たな記帳法など）		
二学期	9月～10月	取引の記帳②（本支店会計、社債の発行と償却・利払い、株式の発行、利益処分、特殊仕訳帳など）			
	11月	決算②（無形固定資産の評価、繰延資産の償却、新たな引当金など）			
	12月	5伝票制、財務諸表など			
三学期	1月	決算手続の復習など			
履修対象	科目「簿記」を現在履修中の者に限る。ただし既に日商3級を取得している者やそれに近い知識を有する者については、能力を確認した上で、「簿記」未履修であっても履修を認めることがある。この場合でも「簿記」を同時に履修することはできない。				
評価方法	検定試験の受検と結果を以て考査とする。また、相当量の課題提出が定期的に要求される。これらに授業中の取り組み方や出席などの日常活動を加味して評価する。				
教材	教科書、問題集				
諸経費	問題集の代金として2,000円程度				

備考	検定試験には別に受験料が必要。また電卓は各自で用意して毎回持ってくること。
----	---------------------------------------

科目名	ビジネス経済			略称	ビジネ経
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	
授業形態	選択者による一斉授業				
科目の内容	日本や世界を取り巻く経済事情や財政・金融・流通などの仕組みについて、ビジネスの視点から重要な部分をクローズアップして学ぶ。				
	一学期	資本主義経済と財政・金融・流通の仕組み なお、経済に関する時事問題を随時扱う			
	二学期	日本・世界の経済情勢とビジネス なお、経済に関する時事問題を随時扱う			
	三学期	今後の経済情勢とビジネスについて			
履修対象	*就職を考えている者 *経済・経営系の進学を考えている者 *その他、企業の活動や金融の仕組み、景気などに興味がある者				
評価方法	定期考査および課題提出を中心に、平常活動を加味して総合的に評価する。				
教材	教科書など				
諸経費	教科書代以外は不要				
備考	公民科「政治経済」と学習内容が一部重なるが、代替にはならないので「政治経済」の学習が必要な者は同科目も履修すること。				

教科 [*国際文化理解]

科目名	*ロジカルコミュニケーションスキル			略称	ロジカル
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	国際・コミュニケーション
授業形態	科目選択者による一斉授業（市民講師および担当教員とのT・T）				
科目の内容	一学期	ロジカルとは「論理的な」という意味。内輪受けでなく世界に通用する、明快かつ説得力のあるコミュニケーション技術を磨く。英語・日本語両方のディベート訓練を柱とする。 一学期内容：オリエンテーション、ディベートの基礎、論理的思考訓練（日本語・英語）			
	二学期	論理的思考力の養成、書く力・話す力の養成（日本語・英語） ディベート訓練（日本語・英語） ディベート実戦演習（日本語）			
	三学期	ディベート実戦演習（英語）			
履修対象	教養講座：ディベートに興味がある人はもちろんだが、大学進学や海外生活、異文化コミュニケーションのために、日本語・英語両方で論理的・戦略的に思考・表現する力を身につけたい人にも是非学んでほしい。ただし、英語の基礎力があり、毎回与えられる課題や、授業外の調査活動にも積極的に取り組む意欲のある人。				
評価方法	毎回の英語の課題、毎時間のレポート、補充課題、小テスト、授業への参加状況、ディベートでの活動状況、ファイルの提出状況、を同等の割合で評価する。				
教材	市民講師作成のテキスト（日本語・英語）				
諸経費	なし				
備考	ディベートとは「ある論題について、肯定側と否定側に分かれてルールに則った議論を行い、第三者（審判）によって、どちらがより論理的で説得力があったかを判定して勝敗を決める競技」である。日本語・英語双方のディベートを扱う。 （旧日英ディベート）				

科目名	*環境 B			略称	環境	コード
単位数	2	科目の種類	総合選択	関連系列	国際・コミュニケーション	
授業形態	科目選択者による一斉授業					
科目の内容	一学期	4月～ 5月 環境問題とはどんな問題なのか 6月～ 7月 環境問題の原因について考える①（公害問題における構図を考える） 7月 環境問題についての考えを発表				
	二学期	9月～10月 環境問題の原因について考える②（スモールイズビューティフルを読む） 11月～12月 環境問題の原因について考える③（成長の限界を読む） 12月 環境についてのレポート作成・発表				
	三学期	1月～ 2月 環境問題への対処について考える（エコロジーの誕生を読む） 2月～ 3月 課題についての発表				
履修対象	環境・環境問題（自然環境・社会環境）に興味や関心のある生徒。また将来環境関連の進路を検討している生徒。「環境 A」を履修している事が望ましい。					
評価方法	学期ごとに示す課題をレポートとして提出する。また、そのレポートを発表する。レポートの内容や発表の方法、内容、態度、また授業への出席などにより総合的に評価する。なお、外部の方に授業に来ていただき講義していただくことも予定している。その際の積極性や受講態度なども評価の対象とする。積極的な姿勢を期待しています。					
教材	その都度用意する					
諸経費	特になし					
備考	自分の意見を発表する。積極的に授業に参加し考える生徒を希望します。					

教科 [理科]

科目名	物理			略称	物理
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義、実験、演習				
科目の内容	一学期	力と運動、電気と磁気、原子と原子核の各分野において、適当な物理的事物・現象を取り上げ、基本的な概念・原理・法則の理解を深めるとともに、科学的な自然観を養う。			
		4月	平面運動、運動量の保存		
	二学期	5月	円運動、慣性力		
		6月	単振動、万有引力		
		7月、9月	気体分子の運動、電場と電位		
	三学期	10月	電流、電流と磁場		
		11月	電磁誘導と電磁波、電子と光		
12月		原子と原子核			
	1月	総合問題演習			
履修対象	2年次に「物理基礎β」を履修したうえで、さらに物理を深く学習したい者。「物理」を受験科目にする予定の者。				
評価方法	定期考査・出席点・提出物点・授業態度を総合的に評価する。				
教材	教科書、問題集、プリント				
諸経費					
備考					

科目名	化学			略称	化学
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	演習・講義				
科目の内容	一学期	4月	化学基礎の復習		
		5月	物質の状態と平衡		
		6月	物質の変化と平衡		
	二学期	7月	無機物質		
		9月	無機物質・有機化合物		
		10月	有機化合物		
		11月	高分子化合物		
三学期	12月	高分子化合物・総合演習			
	1月	総合演習 化学基礎の問題演習も行います。			
履修対象	2年次に「化学基礎β」を履修した生徒で、さらに化学を深く学習したい者。または「化学」を受験科目にする予定の者。				
評価方法	主に定期考査で評価するが、その他、出席状況・実験レポート・提出物・授業への取り組み等を総合的に加味する。				
教材	教科書・問題集・図説（2年次で使用したもの）・プリント				
諸経費					

科目名	生物			略称	生物
単位数	4	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義、実験、演習				
科目の内容	一学期	4月 細胞と分子、代謝 5月 遺伝情報の発現、有性生殖 6・7月 動物の発生、植物の発生 実験観察や演習問題を随時行います。			
	二学期	9月 植物の環境応答、動物の反応と行動 10月 個体群と生物群集、生態系 11月 生物の進化 12月 生物の系統 実験観察や演習問題を随時行います。			
	三学期	1月 総合演習			
履修対象	「生物基礎」より、さらに生物を深く学習したい生徒。 「生物」を受験科目にする予定の生徒。				
評価方法	主に定期考査 提出物等を適宜加味する				
教材	教科書、プリント、資料集、問題集				
諸経費					
備考					

科目名	物理基礎演習			略称	物理基演
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	演習、講義				
科目の内容	一学期	運動とエネルギー、波、電磁気の各分野において、適当な物理的事物・現象を取り上げ、基本的な概念・原理・法則を復習するとともに、学習内容に対する理解をさらに深める。			
	二学期	過去のセンター試験、私立大学入試問題を中心に問題演習を行い、入試対策を行う。			
	三学期	物理学の成果が現代の豊かな生活を支えていることおよび物理学が基礎的で身近な学問であることを再認識し、科学に対する興味を持つ。			
履修対象	2年次に「物理基礎β」を履修した者で、「物理基礎」または「物理」を受験科目にする予定の者。大学入試センター試験・公務員試験一般教養物理等を受験する者。				
評価方法	定期考査・出席点・提出物点・授業態度を、総合的に評価する。				
教材	物理基礎教科書（2年次で使用したもの）、プリント				
諸経費					
備考					

科目名	化学基礎演習			略称	化学基演
単位数	2	科目の種類	自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	演習・講義				
科目の内容	大学入試センター試験レベルの問題の解法を身につけていく。				
	一学期	4月 物質の成分と構成元素 5月 物質を構成する粒子と化学結合、物質量と濃度 6月 化学変化とエネルギー、酸と塩基			
	二学期	7月 酸化還元反応と電池、電気分解 9月 非金属元素の単体と化合物 10月 金属元素の単体と化合物、有機化合物の特徴と脂肪族化合物 11月 芳香族化合物 12月 大学入試センター試験実践問題			
	三学期	1月 大学入試センター試験実践問題			
履修対象	2年次で「化学基礎β」を履修した生徒で、「化学基礎」を受験科目にする予定の生徒。大学入試センター試験、看護専門学校などを受験する生徒。				
評価方法	主に小テストと定期考査とで、評価する。				
教材	化学基礎教科書（2年次βで使用したもの）、問題集、図説（2年次で使用したもの）				
諸経費					
備考					

科目名	生物基礎演習 Z			略称	生基演習 Z
単位数	2	科目の種類	総合・自由選択	関連系列	生産・テクノロジー、情報・サイエンス
授業形態	講義・実験・演習				
科目の内容	一学期	<ul style="list-style-type: none"> ・代謝とATP等（復習と問題演習） ・遺伝子の本体等（復習と問題演習） ・遺伝情報とタンパク質の合成等（復習と問題演習） 			
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> ・生体防御等（復習と問題演習） ・問題演習 			
	三学期	<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習 			
履修対象	理工系の大学や専門学校への進学を希望する者 (2年次現在『生物基礎演習』を履修している者も受講可とする)				
評価方法	定期考査、提出物（実験レポート等）、出席状況、授業態度等から総合的に判断する。				
教材	教科書、資料集、問題集				
諸経費					
備考					